

V 校内研修の計画

1 研究主題

主 題 『主体的に課題解決に取り組む生徒の育成』
副主題 ～学習過程の工夫を通して～

2 主題設定の理由

[今日的教育課題から]

今日、少子化や核家族化、地域社会の人間関係の希薄化などが進み、人とのコミュニケーションが不足し、地域、社会と直接触れ合う機会が少なくなっている。このため、自分を上手に表現したり、相手の立場になって考えたりすることのできない子どもたちが増えてきている。そこで、主体的、対話的で深い学びが必要となってくる。授業の学び合いの中で自分の考えを発表したり、他者の意見を真剣に聴いたりする活動に取り組みせ、自分の考えを自分の言葉や動作、作品などで積極的に表現する場を設定し、主体的に課題解決する生徒を育てることが大切であると考え。

[学校教育目標から]

本校では、『自ら学び自ら考える力を持ち、共に支え合い高め合える、心豊かでたくましい生徒の育成』を学校教育目標の基本目標としている。それを基に、具体目標(目指す生徒像)の一つとして「自ら考え学ぶ生徒」を掲げている。本校ではこれまで「学び合い」による学習を中心に取り組み、成果を出すことができた。今年度は学び合いも含めた学習過程について研修をし、生徒がめあてをつかみ、課題に取り組み、まとめることができるような学習過程の構築を図る。その学習過程を工夫することで、生徒がより主体的に課題解決に取り組むことができ、何事にも主体的に取り組む生徒が育成されていくと考えた。

[生徒の実態から]

本校の校区内は、商店街や工場、住宅地も多く、市役所や平成 26 年度に世界文化遺産に登録された富岡製糸場もある市の中心地である。学校生活全般の様子を見ると、本校の生徒は明るく素直で、互いに協力し合うことのできる生徒が多い。その反面、精神的に未成熟な生徒が多く、学習面では与えられた課題に対して真面目に取り組むことができるものの、指示待ちになってしまうことも多い。本校では昨年も主体的に課題解決に取り組む生徒の育成に取り組んできた。様々な学習の場面で主体的に課題解決に取り組む姿が見られるようになってきたが、課題の提示の仕方によって生徒の取り組みに差が見られ、表現の仕方についてはまだ満足のいくレベルに達していない。そこで、学びを深める活動を効果的に組み込んだ学習過程を通して授業改善をすることで、生徒がわかる喜びや学ぶ楽しさを味わうことにより、自己肯定感を高め、より主体的に課題解決に取り組んでいけるようになるのではないかと考えた。

3 研究のねらい

生徒一人一人が主体的に課題解決に取り組むようになるために、学びを深める活動を取り入れた学習過程をどのように工夫していくか、授業実践を通して明らかにする。

4 研究の概要

学習の過程を、「つかむ」「追求する・深める」「まとめる」の三つに分類し、それぞれの過程において生徒主体の授業を実践するには、具体的にどのような工夫が有効であるかを、学校として、または教科部会ごとに実践を通して明らかにする。

(1) 研究の基礎作り

- ・主体的な学びについての共通認識。
- ・富岡小学校の取組についての共通理解。

(2) 学習過程の工夫改善

- ① つかむ過程…生徒一人一人が主体的にめあてをもつようするための工夫
 - ・学習課題 (つながり、必要感、身近な題材 等)
 - ・課題提示の仕方
- ・生徒主体のめあて

② 追求する・深める過程…生徒が主体的に課題解決に取り組むための工夫

- ・場の設定 ・発表の仕方 ・学習形態（ペア、グループ、全体）
- ・時間の確保 ・個に応じた支援

③ まとめる過程…生徒が、自分でまとめや振り返りができるようになるための工夫

- ・生徒自身の言葉でまとめる ・「めあて」との対応
- ・本時の学習でわかったことや思ったこと、考えの変化等の振り返り

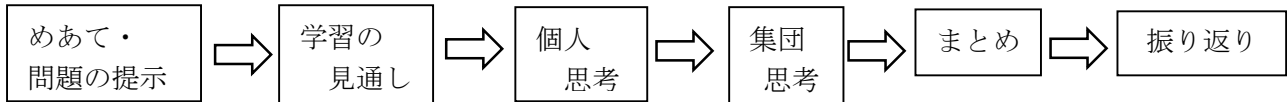
(3) 学習過程以外の取組

- ・板書の工夫 ・ノートの工夫 ・学習習慣

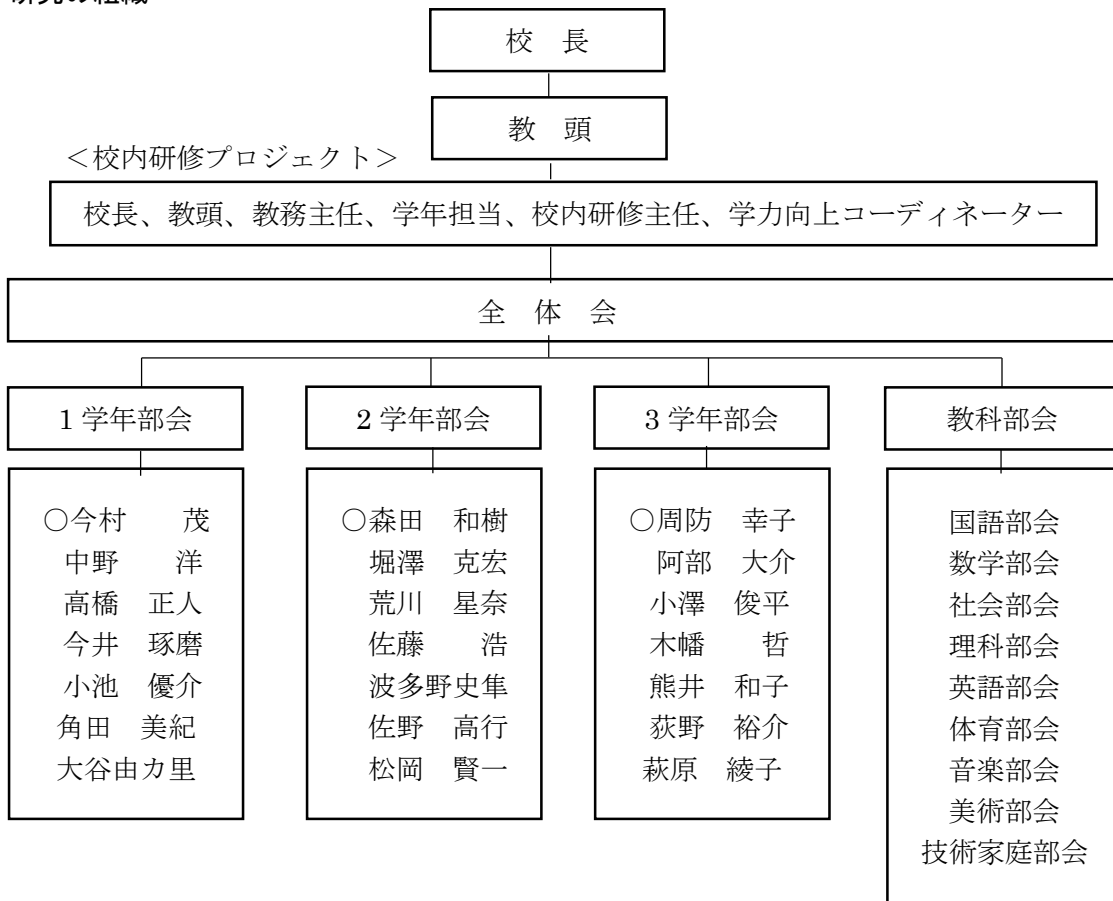
(4) その他の研修

- ・職員間でのOJT

◎ 1時間の学習過程 例



5 研究の組織



6 研修の計画

学 期	研 修 形 態	研 修 内 容
1 学 期	全 体 会 学年部会・教科部会	基礎研究 1時間の教育過程の検討
2 学 期	全体会・学年部会・教科部会 授業検討会（参観者）	授業実践 授業改善
3 学 期	授業検討会（参観者） 全体会	授業実践 研修のまとめと反省